

CLA-2000による避雷器点検方法

適応機種

NRR-48D

避雷器本体内部素子の点検方法は動作開始電圧(素子に微小電流を流したときの電圧)の測定値で判断します。

●端子配列と結線図

本体部

ピン側よりの図

テストピン又はクリップにておこなってください

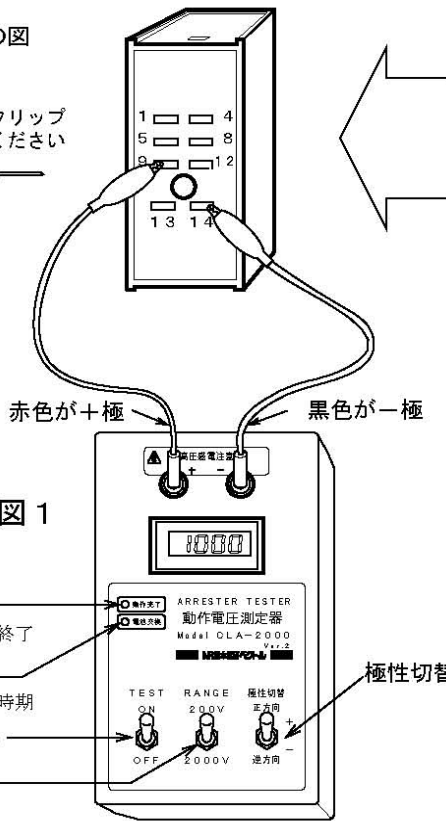
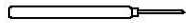


図 1

動作完了表示

緑色点灯: 計測終了

電池交換表示

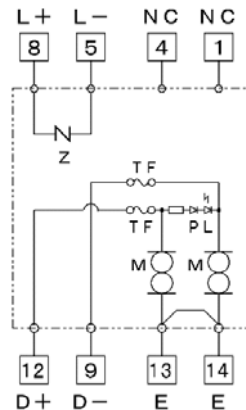
赤色点灯: 交換時期

テストスイッチ

レンジ切替

極性切替

●本体内部の回路図



Z:酸化亜鉛式吸収素子

TF:温度ヒューズ

PL:LED表示器

M:モリブデン式吸収素子

●点検前のご注意

- ① 安全のため配線されたソケットより外しておこなってください。
- ② 感電にご注意ください。
TESTスイッチをONにしているとき、出力の電極を素手で触れないでください。
- ③ メーターのサンプリング周期により読み取り誤差があります。
2~3回程度おこなってください。

●チェッカーの動作について

チェッカーCLA-2000のは1mAの電流制限付きです。1mAを超えた時点で、数値をホールドして素子への電圧印加を停止します。TESTスイッチをOFFにするまで表示します。

●素子の良否判定

- ① チェッカーCLA-2000を図のように接続してください。
- ② 測定する素子(ZD, MやZ)の動作電圧に合わせてRENJE(レンジ)を切り替えてください。
- ③ TESTスイッチをONに投入してください。
- ④ 指示値が下表の範囲外は劣化(不良)と判定します。*1

*1 点検後不具合で新品交換待ちになった場合

- ① 劣化と判断した場合であっても信号に支障がなければ、新品交換まで付け戻してください。
交換までの雷サージ対策となります。

<直流電源用避雷器>

各素子	測定端子間	端子番号 ⊕ / ⊖	印加電圧 (レンジ)	確認内容 下記の範囲であること	故障モード (通常)
線間 ZD	L+ / L-	8 / 5	200V	74-90Vの範囲であること	短絡
接地間 M1	E / D+	14 / 12	2000V	350-850Vの範囲であること	短絡
接地間 M2	D- / E	9 / 14	2000V	350-850Vの範囲であること	短絡
ランプ点灯確認		12 / 9	2000V	通電中のみランプ点灯(動作完了時消灯にて良好)	